

開催期間:

2012,09,08～2012,09,09

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

14Members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

・長野県危機管理防災課・長野市危機管理防災課・長野市消防局

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:	11,222 US dollar
簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止	
利益／損失:	None
簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止	
誰の為に？	38 万長野市民のため
主語を忘れないように「我々 JCI〇〇は、」「我々委員会は、」です。	
目的:	<p>我々JCI 長野は、災害時に、冷静かつ安全に自主的に 行動できる市民を増やすために、以下を実行した。</p> <p>我々JCI 長野は、地域が、大震災に直面した場合、</p>

	被害を最小限にとどめることができる地域にする為に以下を実行した。
3行程度 400字以内	<ul style="list-style-type: none">① 参加者が、今後起こりえる災害をイメージし、直面した時、冷静に考え、協力し、行動できるようにする。② 参加者が、防災の知識を得て、意識を高める事により、災害に直面した時、被害を最小限に食い止める事が出来るようにする。
簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止	
概要:	避難所生活の疑似体験を中心とした1泊2日による体験型防災セミナー

<p>全部で 400 字以上</p>	<p>事業前 東日本大震災で我が国は大きなダメージを負った。 被災地は我々の地域からは非常に遠い。その為、危機意識は大きくはない。 我々は自分たちの地域に同じような危機が到来した際について考える必要があった。 地域市民の災害に対する意識は、どの程度あるのか確かなデータがないため我々は確認した。</p> <p>市民が、災害に直面した時、市民一人一人がリーダーシップを発揮して行動できる人に PositiveChange することが最も重要と考えた。</p> <p>そのような市民が多く住む地域は、安心安全で住みよいまちになります。</p> <p>それはまちの価値向上に大きく貢献する。</p> <p>そして市民の多くが、リーダーシップの基礎である、率先した正しい行動とれるように開発されることは、もっとも地域社会にとって大きなプラスである。</p> <p>彼らが自主的で率先した正しい行動を取れるようにする為に、我々は支援者たちと連携し、地域防災セミナーを実施する。</p>
	<p>事業 我々と支援者が地域防災セミナーを実施する。 災害時に率先して行動できる人を創造するためには、事前に必要な知識を持っていることが必要不可欠である。 その為に必要な資質を開発するために、セミナーを実施。 この事により、 参加者の災害に対する意識を向上させる。 参加者の防災に対する知識を向上させる。</p>

『事業当日の概要』9月8日 14:30 開会式 15:00 プログラム1(防災クイズ、非常持ち出し袋についての話し合い) 17:00 夕食準備、夕食 19:00 プログラム2(避難所の運営を疑似体験) 21:30 消灯 9月9日 6:30 起床 7:00 朝食準備、朝食 9:00 プログラム3(消防体験) 10:30 プログラム4(講演会) 12:00 閉会式 12:30 解散

事業後

我々は、地域防災セミナーを通し、防災クイズ、消防体験等を実施することにより、参加者の災害に対する意識を確認した。
参加者は、地域防災セミナーを通し、避難所生活を疑似体験する事により、防災に対する知識を向上させた。

我々は、参加者及び関係者が、本セミナーを振り返り、災害に備えるための参考資料として活用できるように、報告書を作成した。

我々は、参加者及び関係者に報告書を配布した。

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

結果をきちんと確認しないとココは書けません。
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

結果:

結果

参加者は、地域防災セミナーを受講。
かれらは災害と防災に対する意識と知識が向上した。

我々は、災害時に冷静かつ安全に自主的に行動できる市民を増やす事が出来た。
以上の事により、参加者は災害に直面した時、
自分が生活する地域の被害を最小にとどめられるようになった。

下記、本セミナー終了後に行った参加者アンケートより一部抜粋

問① 本セミナーでの体験は、万が一災害が訪れた時に活かせそうですか？

答① 活かせそう(68.8%) 少し活かせそう(22.9%) どちらでもない(2.1%) あまり活かさない(0%) 活かさない(0%) 無回答(6.3%)

問② 全体を通して本セミナーは役に立ちましたか？

答② とても役に立った(68.8%) 役に立った(27.1%) どちらでもない(0%) あまり役に立たなかった(0%) 役に立たなかった(0%) 無回答(4.2%)

問③ 消防体験はいかがでしたか？

答③ とても役に立った(54.2%) 役に立った(35.4%) どちらでもない(0%) あまり役に立たなかった(2.1%) 役に立たなかった(0%) 無回答(8.3%)

この結果は、本セミナー後に行った参加者アンケートを基に判断した。

下記、本セミナー終了後に行った参加者アンケートより一部抜粋

- ・とても内容が濃く、今後活かしたいと思った。
 - ・自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator) の使い方や、消火の仕方など体験できて良かった。
 - ・学習と体験の両面で役に立った。
 - ・すべて役に立ちそうです。本当に知れて良かった事がいっぱいでした。
 - ・帰ってから、備蓄や、いざという時の家族の行動の見直しをしようと思います。
 - ・知っているつもりでも、知らないことが多かった。
 - ・非常時に持ち出すものについて、追加で準備したい物が分かった。
 - ・非常時に持ち出すものについて、何が重要か改めて確認できた。何を重要視すればいいか確認できた。
- 等

上記の結果の確認方法を書いて下さい

我々は、災害時に冷静かつ安全に自主的に行動できる市民を増やす事が出来た。

参加者は、災害に直面した時、被害を最小限に食い止める事が出来るようになった。

この結果は、我々が想定していたものである。

理由

参加者が、受け身が主体の聴くだけの講習ではなく、積極的に関われる行動型の講習を多く取り入れた為である。

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

行動:

4月上旬 プログラム骨子検討運営協力者と打ち合わせ開始。
参加者募集に関する要綱作成及び募集方法検討

5月中旬 運営協力者との作業分担の協議プログラム基本内容検討

6月上旬 プログラム基本内容決定プログラム詳細内容検討

6月中旬 長野市教育委員会、各学校、住民自治協議会等と協議。
上記他団体への趣旨説明及び参加協力依頼参加者募集ポスター・チラシ案作成

7月中旬 参加者募集ポスター・チラシ完成。
参加者募集開始・広告媒体掲載、プレスリリース開始

8月中旬 参加者決定プログラム詳細内容決定

8月下旬 リハーサル・備品準備プレスリリース

9月8日 プログラム開始

9月9日 プログラム終了

11月上旬 報告書作成・配布

全部で 200 字以上
2000 字以内程度

2012 年 9 月 8 日

14:30 開会式、趣旨説明

15:00 プログラム 1
防災クイズ
参加者の現状の防災に関する意識を確認するために最初のプログラムとして、防災クイズを行いました。
非常持ち出し袋に付いての話し合い
参加者に普段から備えている非常持ち出し袋を持ち寄って頂き、グループごとに話し合いを行いました。

17:00 夕食準備
夕食(炊き出し体験)

19:00 プログラム 2
避難所の運営を疑似体験
長野県危機管理防災課に指導を頂き、万が一、参加者が避難所の運営側という立場に立たされた場合に、的確に対応できるよう疑似体験した。

21:00 就寝時のルール説明、就寝準備

21:30 就寝

2012年9月9日

6:30 起床

7:00 朝食準備、朝食

9:00 プログラム 3

消防体験プログラム

消火器の正しい使い方

火災現場に遭遇した時、自分の手で初期消火が出来るようになるため。

本物の消火器を噴射して、初期消火のトレーニングを受けた。

消火器を正しく使えるように学んだ。

自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator)の正しい使い方

自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator)の正しい使い方を、

長野市消防局の救急隊員から直接指導、

参加者からの質問にもその場で回答。

10:30 プログラム 4

講師による講演会

「家庭や地域での防災」というテーマでの講演会を行いました。

12:00 閉会式

12:30 解散

考察や推奨

アンケートの結果によると、全体を通して「とても役に立った」「役に立った」との意見が多数を占めた。この事から、当初想定していた、正しい行動の基礎になる 知識と情報のシェアに関しては想定の効果があったと考察できる。

しかし、「どちらでもない」「あまり役に立たなかった」との声も少数寄せられたため、参加者に、再度詳細を確認をする必要がある。

少数意見の中からも貴重な情報を取り出すことが重要。

改善点としては、

参加者を増やし、災害、防災の意識が互い住民を増やすためにプログラム内容を再考し、市民と地域の価値向上を図る。

プログラムの改善点

今回は災害が起きた後の対処に重点を置いたが、もっと具体的な状況を想定した、体験やセミナーを企画する必要がある。
(例えば、登校中に地震が起きた場合、食事の準備中に火災が起きた場合)

広報活動の改善点

テレビ、ラジオでの広報を増やすとともに、小中学校等、対象となる地域の施設に直接働きかけるなど積極的に行動をすることで、参加者を増やすことにつなげる。

以上を実施する事により、より多くの市民の意識改革を促す。



	<p>特色とポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域住民と他団体と連携を図りながら地域の防災力の向上のための切っ掛けになる。 ②防災力は、人と人、地域との連携なくしては高める事が出来ない。 ③更によりよい街づくりに必要だと再認識する事業である。 <p>次年度以降のメンバーに伝えたいこと</p> <p>まちづくりの手法として「防災」というテーマのもと「連携」をキーワードに活動してきた。このようなプログラムや手法を自らの住まう地域へ、地域の活動を通して還元する事を望む。</p>
<p>全部で200字以上</p>	
	<p>長野県危機管理防災課より</p> <p>体験型のプログラムが多いのは評価できる。</p> <p>長野市危機管理防災課より</p> <p>避難所体験型の防災セミナーという発想は、ユニークであり、2日間という長丁場の大きな事業を行い、地域社会の防災意識向上のきっかけづくりに大きく寄与出来たのではないかと。</p> <p>長野市消防局より</p> <p>防災について進める行政の立場からして、民間団体でこのような2日間にわたる事業を行ったという事は非常に評価できる。</p>

地元テレビ局(A社)2012年9月8日17時15分よりニュース番組

国営放送(NHK長野放送局)2012年9月9日13時よりニュース番組

地元新聞社(B社)に掲載 発行部数48万4800部 県内普及率61%